

主要事業評価シート(第2次実施計画 / R1・2・3年度)

基本事項	計画コード	事業名	部名	教育委員会事務局
	17073	英語教育推進事業	課名	学校教育課 教育支援G
	施策の大綱	04:子育てと子どもの成長を支える環境の充実	財務	会計
	基本施策	01:子どもたちの豊かな学びと成長	科目	01:一般会計
	施策の方向	03:子どもたちの育ちのための学びの展開	目	10:教育費
戦略プロジェクト	-	目	08:教育研究費	01:教育研究費
事業予定期間	H 19 ~ R - 年度	主な根拠法令要綱等		

目的・概要	対象	小・中学校の児童生徒
	目的	令和2年4月の学習指導要領改訂により、小・中学校の英語指導において、「聞く・話す・読む・書く」の4技能を系統的かつ実践的に身につけることが求められる。ネイティブな英語に触れる機会の充実や、教員の英語指導力向上を図ることで、児童生徒の総合的な英語力の向上を図る。
概要	JETプログラム(語学指導等を行う外国青年招致事業)や派遣委託によるALTを小中学校に配置する。また、小学生が楽しく英語に親しむ機会をつくるため、英語デイキャンプを行う。児童生徒の「聞く・話す・読む・書く」の技能を客観的に把握するため、外部試験等を行うとともに、教員の英語指導力向上のため、英語教育研修会を実施する。	

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	
事業の計画・実績	年度計画	ALTの配置 ・JETプログラム(3名) ・派遣委託(2名) 英語デイキャンプの実施 英語教育研修会の実施 英語試験の実施 ・市作成テスト(小:1回 中:2回)	ALTの配置 ・JETプログラム(3名) ・派遣委託(2名) 英語デイキャンプの実施 英語教育研修会の実施 英語試験の実施 ・市作成テスト(小:1回 中:1回) ・外部試験(中:1回)	ALTの配置 ・JETプログラム(3名) ・派遣委託(2名) 英語デイキャンプの実施 英語教育研修会の実施 英語試験の実施 ・市作成テスト(小:1回 中:1回) ・外部試験(中:1回)	
	年度実績	ALTの配置 ・JETプログラム(3名) ・派遣委託(2名) 英語デイキャンプの実施(8月8日) 英語教育研修会の実施(2回) 英語試験の実施 ・市作成テスト(小:1回 中:2回)			
事業の計画・実績	計画額	事業費	26,600千円	31,200千円	31,200千円
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他	1,060千円	1,060千円	1,060千円
	予算額	事業費	25,990千円		
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他	1,077千円		
	決算額	事業費	24,459千円		
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
人件費	一般財源	24,459千円	0千円	0千円	
	総人件費	7,849千円	0千円	0千円	
	一般職員	7,849千円	0千円	0千円	
	所要人員	1.00			
会計年度任用職員等		0千円	0千円	0千円	
総コスト(+)		32,308千円	0千円	0千円	
受益者負担率		0.0%	0.0%	0.0%	

				令和元年度	令和2年度	令和3年度
指標	名称	学校へのALT配置人数	計画値	5	5	5
		市内各小中学校で活用されているALTの人数	実績値	5		
			単位	人	人	人
	名称	「聞く」「話す」の技能を測定するパフォーマンステスト実施回数	計画値	小:1中:2	小:1中:2	小:1中:2
		英語科パフォーマンステストの実施回数	実績値	小:1中:2		
			単位	回	回	回
	名称	子どもの満足度	計画値	80	80	85
		英語活動・英語科に対する、児童生徒の肯定評価の割合	実績値	73		
			単位	%	%	%

事業の改善	前評価	【前回評価の対応方針の概要を記入】 外国語科、外国語活動の充実と、ALTによる授業力の向上を図る必要がある。心身ともに健康なALTを配置する。子どもたちの外国語科、外国語活動に対して、肯定的評価の向上を図る必要がある。
	改善行動	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】 JET-ALTに対してライフラインの手続きや住居等、生活面でのサポートを行った。児童生徒にとって、効果的な授業を行うために、英語教育研修会及びALT研修会を実施した。英語専科を2名配置し、担任、ALTの連携を図った。新規ALTを招致するにあたって、日本での生活経験の有無や日本語能力やコミュニケーション力の高さに留意し、心身共に健康な人材の確保に向けて、引き続きJETプログラムに要望した。

		評価	(判定)
事業の評価	活動	【計画どおりに実施できたか】 JETプログラムによるALT(3名)、派遣委託契約によるALT(2名)を各校に配置した。(市内の全小中学校に規模に応じて週1回から4回派遣)また、授業以外に研究会や英語キャンプ等、ALTの積極的な参加を促した。英語ディキャンプを実施し、小学生が英語に親しむ機会を作った。教員対象に英語教育研修会を2回、ALTに対する研修会を2回行った。教育委員会で作成したテストを小学校1回、中学校2回実施した。	A 計画どおり実施できた
	成果	【成果は順調に上がったか】 ALTを適正に配置し、授業や休み時間等においてALTによるネイティブな英語に触れる機会を持つことができた。英語キャンプにおいても、33名の小学生が参加し、英語に親しみながら楽しんで活動することができた。英語教育研修会では、言語活の充実を図るためにペア活動やグループワーク等の具体例を示してもらいながら学ぶことができ、教員の指導力の向上につながった。市で作成したテストにより、児童生徒の4技能「聞く・話す・読む・書く」を客観的に把握し、授業実践に生かすことができた。	B まずまず成果を得た

今後の対応方針	課題	【課題は何か】 学習指導要領改訂に伴い、英語科、英語活動の充実をさらに図っていく必要がある。そのためにも、心身ともに健康で、指導力のあるALTを配置する必要がある。ALTの空き時間が少ないため、担任とALTの打ち合わせの時間の確保が難しい。児童生徒が学習した英語を場面に応じて使える力を客観的に把握し、授業改善に生かす必要がある。	<input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> その他 [その他の場合、その内容を記載]
	対応	【課題に対し、どのように対応するか】 ALTの指導力の向上を図るため、教員やALTに対して、研修会を行う。JET-ALTに対して、生活面、指導面の両面でのサポートを行う。新規来日者を受け入れる際には、日本での生活経験の有無や日本語能力やコミュニケーション力の高さに留意し、心身共に健康な人材の確保に向けて、引き続きJETプログラムに働きかける。校内で、担任とALTの打ち合わせがスムーズに行えるよう英語専科とALTの配置を考慮する。市作成テストに併せて、外部試験を導入し、より効果的な授業が行えるようにする。	
	効果	【対応することで、どのような効果が期待できるか】 全小中学校において、ALTのネイティブな英語に触れることができ、ALTを活用した質の高い授業が継続できる。児童生徒が学習した英語を場面に応じて使える総合的な英語力の向上を図ることができる。	
対応時期		令和2年度	

【1次評価者】	教育委員会事務局 学校教育課 教育支援グループリーダー 武内 早奈美
【最終評価者】	教育委員会事務局 学校教育課長 宇野 勉

(参考:前期基本計画期間(H29-R3)における評価履歴)

		H29	H30	R1	R2	R3
判定	活動	B	A	A		
	成果	B	B	B		

令和元年度予算額(事業費)の内訳

予算額(事業費)		25,990 千円
内訳	平成30年度からの繰越額	千円
	令和元年度の最終予算額	25,990 千円
	令和2年度への繰越額	千円